令和6年度第3回浜松市美術館協議会会議録

- 1 開催日時 令和7年3月19日(水)
13時55分～15時00分
- 2 開催場所 浜松市美術館2階 応接室
- 3 出席状況
会 長 内 田 いず美
委 員 磯 部 啓 次
委 員 石 上 充 代
委 員 伊 藤 公 子
委 員 笥 有 子
委 員 山 口 剛
(事務局職員)
市民部文化振興担当部長 嶋 野 聡
美術館長 飯 室 仁 志
秋野不矩美術館長 鈴 木 英 司
美術館長補佐 中 村 真 康
美術館副主幹 市 川 智 久
美術館副主幹 若 澤 久 実
美術館 島 口 直 弥
- 4 傍聴者 0人
- 5 議事内容 (1) 令和7年度浜松市美術館事業計画について
(2) 令和7年度浜松市秋野不矩美術館事業計画について
(3) その他
- 6 会議録作成者 若澤 久実
- 7 記録の方法 審議事項について発言者の要点記録
録音有

8 会議の記録

(中村館長補佐) 令和6年度第3回浜松市美術館協議会を開催する。

協議会開催にあたり、荒川委員、今田委員が所用により欠席となるが、浜松市美術館協議会要綱第5条に基づく委員過半数以上の出席となったため、本会議開催要件を満たしたことを報告する。傍聴の申し込みは0人である。本日の会議録署名人は、内田会長にお願いする。

それでは、次第に沿って、内田会長からあいさつをお願いします。

(内田会長) 2期4年間の委員を務めさせていただいた。任期の始めはコロナ禍だったため、市展応募作品から少し不安な心情が伝わってきたが、今年度の市展作品は全体的に明るい色調の作品が多かった。内側から美術館に関わることができ、良い経験になった。

(中村館長補佐) 次に、嶋野担当部長からあいさつする。

(嶋野担当部長) 任期が終了となる委員の皆様には、これまで美術館運営にご意見をいただきお礼を申し上げる。今後も忌憚ないご意見をいただければありがたい。本日は、令和6年度最後の協議会になるが、次年度の美術館事業についてご意見をいただきたい。令和7年度は、躍動するアジア陶磁、大ガラス絵展などの展覧会を開催し、年度の後半は外壁工事を実施する予定である。

(中村館長補佐) それでは、議題に入る。ここからの進行は、内田会長をお願いします。

(内田会長) 最初に、(1) 令和7年度浜松市美術館事業計画について、事務局から説明をお願いします。

(事務局) 浜松市美術館2025年度展覧会スケジュールをご覧いただきたい。4月中旬からは町田市立博物館所蔵の名品を紹介する、特別展「躍動するアジア陶磁」を開催する。令和6年秋に開催した小杉コレクション展では中国・朝鮮の陶磁器を中心に展示したため、今回はタイやベトナムやなど東南アジアの各地域の陶磁器を選定している。地域ごとの対比についてもぜひお楽しみいただきたい。7月からは、当館の初代館長である内田六郎氏寄贈のガラス絵コレクションに加えて、ドイツのバイエルン州アウクスブルク市のアートコレクション&美術館・博物館等の作品を合わせた約200点を一堂で紹介する、企画展「大ガラス絵展」を開催する。当館はガラス絵の美術館というアイデンティティがあることから、ふさわしい展覧会となるよう努めていきたい。また、小展示室にて開催する館蔵品展について説明する。令和7年度から事前に展示スケジュールをお知らせする形でカレンダーを作成した。先ほど説明した「大ガラス絵展」では、主に江戸時代の作品を展示するが、館蔵品展示1「現代ガラス絵・小出檜重を中心に」では、近現代の作家のガラス絵作品を展示してお楽しみいただきたいと考えている。企画展「大ガラス絵展」に先駆けて展示することで、多くの来館者にガラス絵の魅力を知っていただき、興味・関心を持ってもらうきっかけとしたい。次に、館蔵品展示2「新収蔵品日本洋画展 風景の旅」では、地域ゆかりの洋画家である原田京平、川島理一郎の作品を展示す

る。展示予定の作品は、令和5年度に収集したものだが、令和7年度は原田京平生誕130年にあたり満を持して紹介させていただくものである。最後に、館蔵品展示3「みほとけのキセキ番外編 普門寺の仏像―重文降臨!―」では、豊橋の普門寺の重要文化財である仏像を2体展示する。裏面には「アートをもっと楽しもう!美術館学芸員講座」の概要を掲載しているためご一読いただきたい。説明は以上である。

(内田会長) 続いて秋野不矩美術館事業計画について、事務局から説明をお願いする。

(鈴木館長) 令和7年度秋野不矩美術館に関する事業計画について、説明する。指定管理となって3年目、令和6年度は最終年を迎えた。令和7年度から新たに5年間の指定管理期間が始まるが、これまで同様、年間テーマを決めて展覧会を開催していく考えである。令和7年度特別展・所蔵品展では「まなざし」をテーマに、作家の心の内に沸き起こる「創造の源流」に目を向け、作家の生き様、表現への飽くなき追及、それを支える作家のまなざしに焦点を当てて展示する。令和7年度特別展は「京都大原に生きた画仙人 小松均展 自然をまなざす」、「風景のまなざし」「京都市立芸術大学 学術資料館所蔵 京都の日本画―京都画壇の俊英たち―」を開催する。当館が所蔵していない不矩作品や同時代に活躍した著名な作家の作品を紹介する予定である。特別展「京都大原に生きた画仙人 小松均展 自然をまなざす」では、小松均は京都を拠点に活躍した作家であるが、秋野不矩にとっても京都は創造の起点となった場所であり、その共通性や対比などを紹介する。次に、特別展「風景のまなざし」では、株式会社ヤマタネの所蔵品から、秋野不矩の「雨雲」「シヴァ寺院」のほか小野竹喬や東山魁夷など近代日本画を代表する作家たちの風景画を紹介する。特別展「京都市立芸術大学 学術資料館所蔵 京都の日本画―京都画壇の俊英たち―」では、秋野不矩「雨期」、徳岡信泉、村上華岳などの初期作品を展示する。

所蔵品展では、仏教的な意味合いを込めて「眼(まなこ)」をタイトルに含めた5つの展覧会～心施・眼施・慧眼・天眼・慈眼～を開催する。人の心のいたみも自分事として捉えるという、秋野不矩のまなざしをテーマに不矩の人間性、母としての一面、女性が活躍しにくい時代における創作活動など多面的・多角的な視点から展示を行う予定である。また、日本画作品と関連して、これまで紹介してこなかった素描や下図なども積極的に活用していく予定である。説明は以上である。

(内田会長) 事務局からの令和7年度事業計画の説明について、ご意見、ご質問はあるか。

(山口委員) 令和7年度は外壁改修を実施するとのことであったが、耐震などの点

は問題ないか。

（嶋野部長）耐震は問題ない。外壁の劣化に対する工事を行うものである。

（山口委員）秋野不矩美術館は、所蔵作品数に限りがあるため、毎回切り口を変えた企画を考える苦労があると思う。素描や下絵も展示活用するということだが、なかなか見られる機会はないと思うのでぜひ広く周知していただきたい。

（鈴木館長）問い合わせが増えているため、対応できるよう資料準備を進めているところである。

（磯部委員）秋野不矩美術館では、同時代を生きた作家や関連のある作家の展示も見られるため、見方が変わり良い刺激になっている。魅力的な企画が多いと感じる。

（筧委員）浜松市美術館のアートをもっと楽しもう！美術館学芸員講座が非常に充実していると感じる。申込状況や年齢層などについて教えてほしい。

（事務局）学芸員講座は令和6年度から開始した取組である。学芸員の専門性を生かして様々な講座を開催しており、内容により申込状況や年齢層は異なっているが、絵本原画をテーマにした講座は、親子で申し込む方が多く定員50名が満席になった。そのほかの講座においても30～40名程度の申し込みがあり大変好評である。

（筧委員）秋野不矩美術館所蔵品展のテーマには「眼」が共通してタイトルに含まれているが、この5つのテーマはどこか引用元があるのか。

（鈴木館長）秋野不矩のご遺族に仏教と縁の深い方がおり、仏教の教え等のなかからオリジナルで提案したものである。秋野不矩の見方・考え方に近い言葉を選んでテーマとした。

（石上委員）令和7年度は企画展「大ガラス絵展」を開催されるとのことだが、ガラス絵は浜松市美術館の核となるコレクションであり、また海外から作品借用するなど開催に至るまで大変なご苦労があったかと思う。観覧料の価格設定がやや高めを感じるが、料金設定に関する仕組みなどはあるか。静岡県立美術館では、これまで観覧料に上限設定があったが、来年度からその設定を撤廃することとなった。

（飯室館長）本市において上限設定はないが、昨今の輸送費等の物価上昇や受益者負担の考えからこの入館料をいただくこととした。

(石上委員) 質の高いものやそれなりの規模感のあるもの、多くの方に喜ばれるものを企画するためには、受け入れざるを得ない変化だと感じる。秋野不矩美術館特別展では、関わりのある作家作品と対比しながらの展示ということで興味深く感じた。企画協力に会社名の記載があるが、展覧会の企画提案をされている会社か。

(鈴木館長) 秋野不矩美術館が開館する以前、不矩作品を管理していた会社であり、創画会とも関わりの深い会社である。また、京都方面の作家や作品にも強い企画力があるため、当館から大まかな方向性を示して、具体的な企画案を提案していただいている。

(石上委員) 創画会とも縁が深く、以前作品を管理していた会社であれば、企画を依頼するうえでも心強いことと思う。所蔵品展のタイトルについて、仏教の教えをヒントにされたとのことだが、不矩自身も仏教に関する関心が深かったり、仏教に関する記述を残していたりということはあるのか。

(鈴木館長) インド滞在中に、仏教やヒンドゥー教などの源流を目の当たりにしていることから影響を受けた部分はあると考えられる。また、不矩の五男は京都の寺社で住職をしているなど仏教との関わりが深い。令和6年度には高畑郁子特別展を開催したが、高畑もインドを訪れて作風が変容した作家である。作品の中に曼荼羅構造が描かれ、霊界と現世が交わる様子を作品において表現している。高畑作品を展示室に展示してみて、秋野不矩美術館展示室の空間構造にも曼荼羅がちりばめられていると感じた。展示室で来館者との交流を想定していたのではないか。

(石上委員) 県立美術館において石崎光瑠展を開催中だが、光瑠もまた、インドに渡り画風に目覚めた一人であり、日本画家とインドとの関わりは興味深いと感じた。

(伊藤委員) 令和7年度は改修工事を控えているとのことだが、そのような中でも同時進行して展覧会の開催準備を進めているのはすばらしいことだと感じる。また、本日配布された特別展「躍動するアジア陶磁」のチラシは大変目を引くデザインであり、気になる、行ってみたいと思わせるものである。先ほど秋野不矩は人のいたみも自分のこととして受け入れる考えを持っていたと説明があったが、そうした人柄に焦点を当てた展示にも非常に興味を持った。ぜひそうしたパワー、エネルギーをいただきに展覧会に足を運びたいと思う。

(内田委員) 令和7年度後半の外壁工事のため休館する間は、学芸員の皆さんはどのような活動をされるのか。

(事務局) 改修工事の始まる令和7年度秋以降は、修学旅行を控える中学生向けの仏像講座を開催したり、協働センター等からの出前講座依頼に対応したりすることを予定している。また、浜松市美術館は改修工事中だが、場所を変えて第73回市展を開催予定であるため、その準備運営を行う期間となる。

(内田委員) 休館期間中も多くの業務があると思うが、活動をPRする機会と捉えていただけたらと思う。

(石上委員) 令和6年度から始められた学芸員講座は、浜松市美術館の学芸員の「顔が見える」取組であり、興味を持つ方も多いと考えられるため、継続していただきたい。

(内田会長) それでは、次第の4(3)その他について事務局から説明をお願いします。

(事務局) 「浜松市美術館運営についての考え方ー改訂版ー(案)」を配付させていただいた。令和2年度に策定した「浜松市美術館運営についての考え方」を社会状況の変化や博物館法の改正等を踏まえて取組内容を改訂したものである。改訂にあたり、これまでの取組に対する総評や、今後の取組内容等を見直しているため、ご一読いただき、ご意見いただければと思う。公表に向けてのスケジュールとしては、令和7年度第1回協議会において承認いただく形としたい。説明は以上である。

(内田会長) 本日の議題は以上である。

(事務局) 以上をもって令和6年度第3回浜松市美術館協議会を閉会する。